参考資料

平成26年度第1回子ども・子育て会議での主な意見

議題	委員	意見
1　新たな子ども施策総合計画について ア　計画の基本的な考え方（基本理念及び基本的視点など）	米川委員	乳幼児期の教育・保育に関する記載が少ないのではないか。何を大切にしていくのかが書かれていない。
	伊藤委員	基本理念の「まちの実現」という表現に違和感がある。まちづくりではなく、人づくりではないか。
1　新たな子ども施策総合計画について イ　計画の内容（施策の現状と課題及び主な施策展開）	米川委員	内容が次世代育成計画のものから抜け出ていない。就学児童も対象としているが、乳幼児期の子どもに対しての支援(基本目標2)をもっと細かく、濃く書くべきではないか。
	山田（春）委員	子どもの夢を実現させるための施策がもう少しあっても良いのではないかと思う。今後、この会議でもそういったことも踏まえて議論していければいいと思う。
	米川委員	仕事と生活の調和、ワークライフバランスは重要。企業への働きかけなどにより、育児休業、育児短時間勤務等が取りやすくなるといいと思う。
	伊藤委員	P12は新制度にあった表現、言葉に変えるべきではないか。
	堀江委員	子どもの最善の利益とは何か。重要なことなので、あいまいにせず、無理矢理でも何かに決めた方が良いのではないか。
	大田委員	多くの施策が上がっているが、何か一つに絞って確実に進めていく方が良いのではないか。
	米川委員	【P3 障害のある子どもに対する支援について】 「障害のある子ども」と「発達障害児」が混在しているのではないか。「知的な遅れのない発達障害者」と記載されているが、現在は「知的な障害のない」と表現するのではないか。 ②で、「受診を希望する子どもを速やかに診断し」となっているが希望しているのは保護者ではないか。 ④の地域生活支援では、保育所等訪問支援を入れた方が良いのではないか。
	川口委員	【P3 障害のある子どもに対する支援について】 ④の障害児相談支援は、保育所等訪問支援とセットでないと進まないのではないか。 学校との連携はまだまだ進んでいない。障害児の支援の記載について、内容をもう少し深めたものとして欲しい。
2　平成26年度子ども施策関連予算について	米川委員	保育園に比べて幼稚園に対する補助が少ない。充実してほしい。
	藤井委員	ひとり親家庭の子どもへの学習支援は重要。ボランティアの学生に対し、採用試験に加点があるなど、何らかの特典があると参加しやすい。
	堀江委員	認定こども園と保育園・幼稚園の違いが、保護者等には分かりにくい。企業も含めて社会全体に知らせていくことが必要である。
会議終了後にいただいた意見	菅谷委員	資料1 P1の2（1）「調和のとれた発達を図る」の意味が分かりにくい。